地震を乗りこえようとした先人の知恵

長い歴史の中で，日本人は何度も大きな地震を経験してきました。むかしの人々が，地震を乗りこえようとした知恵や被害の大きさを後の世に伝えようとしたメッセージを見つけてみましょう。

1 たび重なる地震とたたかってきた仙台城の石垣

東日本大震災では，伊達政宗が築いた仙台城も大きな被害を受けました。本丸跡の石垣が，３か所，約60メートルにわたってくずれ落ちてしまいました。

仙台城本丸跡のくずれ落ちた石垣

仙台城は，江戸時代のおよそ260年間に，10回以上の大きな地震を経験しました。大地震が起こるたびに石垣がくずれ落ち，積み直すための工事を何度もくり返してきたのです。

1997年（平成９年），ふくらみやずれが目立ってきた石垣の積み直し工事が行われることになりました。工事にともなう発掘調査によって，現在見える石垣の内部にも古い時代の石垣があることが分かりました。

調査の結果，地震でくずれ落ちた古い石垣を再利用して背後の土の圧力を受け止め，石垣を安定させていたことが分かりました。

背後から発見された古い石垣

石垣を安定させるための石の列

排水のための施設も加えるなど，高度な技術で石垣の強度を高めていたのです。仙台城の石垣には，地震を乗りこえる「より強い石垣」をめざした先人の様々な工夫のあとが残されているのです。

2 地名が伝える先人のメッセージ

地震などの自然災害を乗りこえようとした先人の知恵は，「地名」や「言い伝え」からも読み取ることができます。

薬師様にタコが付着したという蛸薬師

太白区長町にある「蛸薬師」には，津波によって現在の長町辺りまでタコが打ち上げられたのではないかと考えられる「言い伝え」が残されています。災害の大きさを後の世に伝えようとした，むかしの人のメッセージ，みなさんも発見してみませんか。

文化財を守り続ける～NPOによる堤町登りがま修復～

東日本大震災は，人々が大切に守り続けてきた文化財にも大きな被害をあたえました。

登りがま修復のワークショップ

青葉区堤町に，市内でただ一つ残されていたレンガ造りの６連の登りがまも，その半分以上がくずれ落ちてしまいました。

修復に立ち上がったのは，建築やデザインの専門家が中心のNPO「建築と子供たちネットワーク仙台」のメンバーです。子どもや学生ボランティアを集めて，登りがまを修復するワークショップを何度も開催し，元の姿にもどすことができました。

この他にも文化庁が行っている「文化財レスキュー」と呼ばれる活動など，失ってしまったら二度と取りもどせない大切な文化財を守り伝える活動が各地で行われています。